

図書館報

Kyushu International University Library Bulletin

vol.
41

Vol.38 から、電子媒体のみでの発行となりました。



Contents

- 図書館長からのメッセージ P.2
- 図書館使おうよ！ P.2-3
- 図書館Information P.4

図書館長からのメッセージ



「学び」、「やすらぎ」、「つながり」の場としての図書館

図書館長 山口 秋義

2025年の北九州市内への転入者が転出者を443人上回り2年連続の増加となりました。その内訳は、日本人が1284人の転出超過で外国人が1727人の転入超過でした。新たに北九州に来られた外国籍の方々の多くは英語以外の言語を母国語としています。近年増加傾向にあるのがベトナム人とネパール人で、それぞれ市内に暮らす外国人のなかで約18%と約12%を占めます。（『北九州市統計年鑑』3-6表より算出した令和5年12月31日時点での数値）

『北九州市立図書館基本計画』では、「学び」、「やすらぎ」、「つながり」という3つの場を創造することを目標としています。

本学にも多くの留学生が学んでいます。本学図書館は留学生諸君にとっての「学び」、「やすらぎ」、「つながり」という3つの場を提供する役割も担っています。本学図書館が留学生諸君と日本人学生との「つながり」の場となればよいと思います。

英語以外の外国書籍の購入など図書館への要望を受け付けていますのでご意見をお寄せください。

北九州市の魅力を紹介する情報誌『雲のうえ』の最新41号について、「発行を担ってきた市のまちづくり団体の解散に伴い、現体制下では最後の発行となり、関係者は『今後も出せるようにはたらかかけていきたい』と話している。」と報じられました。（※『毎日新聞』2026年3月6日朝刊17面より）

『雲のうえ』では、北九州の「いま」を毎号一つのテーマに絞った記事で紹介していて、31号（2019年）の「北九州スポーツ探訪」では、本学の元ウエトリフティング部員の柳田瑞樹選手（当時）を取り上げています。また23号（2015年）「世界文化遺産登録記念 北九州の製鉄所」では、本学の客員教授を務めたこともある作家の佐木隆三さんが、八幡製鉄所での勤務時代について最後の手記を寄稿しています。

食べ物の特集「うどん」（22号・2015年）、「お菓子」（24号・2016年）、「カレー」（27号・2017年）、「やきとり」（30号・2019年）、「すし」（32号・2020年）、「中華料理」（37号・2023年）、「焼肉」（38号・2023年）では、八幡にある店も紹介されています。詳細は公式HP（<https://kumonoue.lets-city.jp/>）もどうぞ。



↑『雲のうえ』21号～40号 テーマによって変わる表紙画や題名は、北九州市出身の画家・牧野伊三夫さんによるものです。41号は3月中に届く予定です



図書館使おうよ！



九州・沖縄の文化や郷土史をテーマにしてきた季刊誌『西日本文化』が、発行元である「西日本文化協会」の2027年3月解散に伴い、2027年1月発行の521号で廃刊となります。

「西日本文化協会」の会誌として1962年に創刊して以来、1964年から山本作兵衛の「炭鉱記録画」を紹介したり（2011年に日本初の「世界記憶遺産」に認定）、1968年から「九州国立博物館」の誘致を訴えたり（2005年に開館）など、約64年に渡り郷土史研究の情報共有に貢献してきました。本学では3冊（8,16,20号）を除いて『西日本文化』の全号を所蔵しており、他大学からの記事の複写依頼が時々来ている。

今からちょうど60年前に出版された24号（1966年）を見ると、「ふるさと八幡」と題した座談会が掲載されています。その中で、昔の八幡の特産品として「ピータラ飴」「くび飴」など、一風変わった名前のお菓子が紹介されていました。そこで、「西日本文化協会」HPの「西日本文化総目次」※を検索してみると、直方郷土研究会の牛嶋英俊氏の記事が2件「筑前木屋瀬のピータラ飴とその周辺」（410号・2005年）と、「続・筑前木屋瀬のピータラ飴とその周辺」（419号・2006年）が見つかりました。著者名で検索すると、牛嶋氏は「昔のスイーツ探し旅」という記事を436号（2008年）から495号（2020年）まで連載していて、438号（2009年）で「ピータラ飴」について追加情報を紹介しています。

※<https://www.bunkakyokai.org/newpage5.html>

ちなみに、現在の木屋瀬のお菓子については、北九州市の無料情報誌『雲のうえ』24号（2016年）で紹介されているので、そちらもご覧ください。

最近の『西日本文化』では、元北九州市立図書館職員の轟良子氏がネット時代の公共図書館の使い方や活動を伝える「図書館探訪ものがたり」（481号・2017年～511号・2024年）を連載していて、「地域と共に育つ八幡図書館 鉄の絆から『やはたアートフォレスト』」（502号・2022年）では、八幡図書館で本学の三輪ゼミ生がおすすめ本の展示をしたり、八幡図書館の紹介ムービーを制作・公開したりしたことが紹介されています。

『西日本文化』創刊号～517号→

創刊号～100号、278号～334号の表紙は、祝部至善（ほおりしぜん）さんの風俗画。創刊号の「箱崎放生会」など、自身が子どもの時に見た明治時代の福岡を描き残しました。335号～408号の表紙は、日野文雄さんの写真。荒尾にあった「ウルトラマンランド」など、地方文化と言っているのか判断に迷う写真がたまに出てくるのが面白いです。420号から現在までの表紙は、毛利一枝さんがデザインを、広野司さんが版画のカットを担当。北九州特集では、「若戸大橋」と戸畑の特産民芸品「孫次凧」を描いています。



図書館Information

●「新入生ガイダンス」を行いました。

4月2日：学部生入学説明会、4月3日：大学院生入学説明会
4月17日：図書館情報資源特論（矢崎先生と受講生5名）閉架見学
4月17日：大学院生Westlaw Japan（法律総合オンラインサービス）説明会
4月18日・25日：法学部法律学科入門セミナー
4月24日：現代ビジネス学部国際社会学科セミナー



●北九州市主催の「認知症ブックフェア」(9月1日～9月30日)に参加しました。

認知症に対する理解と知識の普及・啓発を図るために、認知症に関する本や認知症のご本人・ご家族の書いた本関連図書を展示しました。

●定期購読誌(和雑誌)変更のお知らせ

『会計』『厚生労働』は、2025年3月から休刊になりました。

『西日本文化』は2027年1月で廃刊になります。

図書館報 Vol.41 2026年3月発行

編集発行：九州国際大学図書館

北九州市八幡東区平野1-6-1 TEL (093) 662-8305 ✉lib-admin@office.kiu.ac.jp

九州国際大学 図書館



2024年4月1日より、九州国際大学図書館事務室の代表メールアドレスが変更になりました